

## 読者投稿欄「なまず通信」

神奈川県温泉地学研究所観測だより（以下、観測だより）では、読者の皆さまからの投稿欄を設けています。掲載記事に関するご意見・ご感想はもとより、皆さまが地震や温泉などについて身近に感じている事柄や、温泉地学研究所に対する叱咤激励などいろいろとお寄せいただければと思います。

○原稿は楷書体でお願いします。

○出来るだけ多くの方のご意見を掲載させていただくため、お一人様の文字数を全角で 200 字程度までとさせていただきます。

○紙面や編集の都合上、お寄せいただいた全ての原稿を掲載出来ない場合や、お送りいただいた文章を当所において一部編集して掲載させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

○お送りいただいた個人情報に関しては、当所において適正に管理するとともに、観測だよりのみに使用し、

目的外使用は一切行いません。

○投稿形式は自由ですが、このページ下段に簡単な投稿様式を用意しましたので、ご利用下さい。

（四角枠で切り取って、普通はがきに貼れるサイズとなっています。）

### 送付先について

郵送・FAX・フォームメールでお受けしています。宛先は下記までお願いします。

郵送：

〒 250-0031

神奈川県小田原市入生田 586

神奈川県温泉地学研究所

編集部会 宛

FAX：0465-23-3589

フォームメール：[https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form\\_mail/request\\_form.php](https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form_mail/request_form.php)

「お問い合わせ内容」のところに  
ご記入下さい。

### お便りのご紹介

前号（第 64 号）を送付した際に、読者の皆様からのご意見やご感想をお寄せいただきました。掲載可としていただいたハガキやメール中から一部を紹介させていただきたいと思っています。

秋田県 小松様；

写真や図表が鮮明であり、トピックス・コラムの内容が非常にわかりやすく説明されている。大変貴重な紀要であると思います。

東京都 丸山様；

観測だより 64 号を御送付下さり有難うございました。21 世紀の広報誌らしく鮮やかなカラー印刷の冊子はこれ迄のより理解しやすく、つい文面に迄も引きこまれよく読んでみますと中々興味深く、地球の町医者としてのご活躍を期待いたします。

お名前：

ご住所：〒

(TEL： — — )

ご意見等：

お名前・住所（市町村名まで）の観測だよりへの掲載について

掲載可 匿名希望 その他(具体的に： )

神奈川県 匿名希望様；  
トピックスや地学の豆知識など非常にわかりやすく解説されており理解が深まりました。

静岡県 匿名希望様；  
少しでもお役にたっているのであればと思っていますが、自分も高齢ですのでいつまで出来るか分かりませんが、がんばるつもりでいます。

神奈川県 匿名希望様；  
長年に渡りお送り、ありがとうございます。以後もよろしく願います。

### 編集後記

観測日より第64号の読者の方々からお送りいただいたはがき・メール・FAX等のご意見・ご感想などを掲載させていただきました。紙面の都合上、抜粋させていただいたり、掲載できなかったお便りが多数ありましたこととお詫び申し上げます。

今号の冒頭では、里村所長の『神奈川県と静岡県の地震防災への取り組み』を掲載しています。神奈川県は、関東大震災以降、大きな地震災害を経験していません。大規模地震の発生が想定される地域として、先駆的に防災対策に取り組んできた静岡県から学ぶことも大いにあると感じさせる内容になっています。

この一年間を振り返りますと、非常に多くの自然災害が発生したように感じます。8月に広島で発生した土砂災害、9月に発生した御嶽山の噴火、11月に発生した長野県北部の地震などが挙げられます。特に、御嶽山の噴火は、同じ活火山である箱根を観測・監視する私たちにとっては、衝撃的な出来事でした。箱根火山における最後のマグマ噴火は、およそ3,000年前と言われています。また、御嶽山で発生したような水蒸

気噴火については、箱根では12～13世紀頃に発生したという痕跡が見つかっています。箱根町が作成している箱根火山の防災マップでも、最も発生が懸念されている噴火のタイプとして、水蒸気噴火を想定し、災害予測を行っています。しかしながら、箱根火山を観測・監視する私たちは、実際には、箱根の噴火を経験しておらず、過去に箱根が噴火したときのことは知りません。その様なこともあり、神奈川県における火山防災に資するため、温泉地学研究所の職員を含む合同調査チームが、御嶽山の周辺地域において緊急調査を行いました。その際の様子、今号の竹中ほかによるトピックスに記載されています。また、同様に、国内で最も活発な火山活動を示す火山である桜島・霧島山についても、その観測体制や防災対策などについて視察を行った様子が、原田ほかによるトピックス記事にて紹介されています。両記事の内容は、箱根火山における観測体制や防災情報の発信方法などを考える上で、とても興味深い内容となっています。

また、箱根火山の成り立ちや過去の活動を伝えるものとして、箱根ジオパークがあります。箱根ジオパークは2012年9月に日本ジオパークに認定されました。2015年4月1日現在、日本には、36のジオパークが存在し、その内、7地域が世界ジオパークに認定されています。加えて、ジオパークを目指す地域は、全国に16地域あり、日本全体にジオパークの活動が広まったといえる状況になっています。今号では、韓国の濟州島（世界ジオパーク）と三陸ジオパークを訪れた際の報告がなされています（それぞれ、万年、道家によるトピックス記事）。他の地域で、どの様なジオパーク活動がなされているか知ることは、箱根ジオ

パークにおける活動に大いに参考にできると考えられます。また、温泉地学研究所におけるジオパーク活動の一つとして位置づけられるのが、温泉揭示プレート“Chocotto”です（菊川によるコラム記事）。Chocottoには、温泉に関する科学的な豆知識が、その名の通り、ちょこっと記されています。温泉に入りに来た方に、その温泉の成因などについて知って頂くことはもちろんのこと、箱根ジオパークのジオサイトである温泉施設を運営する方々にも、自身の温泉がどの様にできているのかを知って頂ける良い機会になるのではないかと期待されます。

その他のコラム、観測データについても、例年通り充実した内容になっています。特に、なまずの会の観測結果は、会員の方々による継続的なご尽力あつての結果であると言えます。また、地殻変動や地震の観測の結果は、観測機器を置かせて頂いている施設の方々のご理解とご協力があつてのことと言えます。なまずの会の会員の皆様、観測機器を置かせて頂いている施設の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

観測日より、前号よりカラーの紙面でお送りしています。ご紹介させて頂いたお便りにあるように、カラー化したことにより、わかり易くなったというご感想を頂いております。今号でも、トピックスやコラムなどでは、多くの写真がカラーで掲載されています。緊急調査、視察の様子や、ジオパークにおける美しい景観、露頭の様子などが、よりわかり易くお伝えできるのではないかと考えています。今後も、観測日よりお手にとって頂けるよう、魅力のある紙面を作っていきたいと思えます。（道）